

表紙のことは

月に一度程度外来作業療法を利用されているりんごさんの作品です。顔彩を使用して絵手紙を描いています。わずかなこともストレスになり、一つひとつの生活動作に大変さを感じながらも、ヘルパーを利用し地域で生活されています。作業療法では、病院の広報誌に載せる絵手紙や詩を編集しています。今回の作品については、「顔彩を使って絵手紙を描いています。茶色とえんじ色のぼかしが少し難しかったです」と話してくれました。作品が自分の手を離れ、誰かに見てもらえることがとてもうれしいと話されています。

(担当 OT：宮阪)

りんご「絵手紙 りんご」



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



畑 隆則「サンタさんの年に一度の出勤」

私は中学1年で統合失調症を発症し、34年間闘病生活が続いています。薬を服用していますが、大好きな趣味の絵が薬の影響で質が落ち自分の思い通りに描けないことが嫌で、今まで何度か断薬し失敗した経験もありました。今は治療しながら作業療法でも絵を描き続けていて、薬とも付き合いながらこれからも絵を描き続けようと思っています。

自分なりのクリスマスの世界観を絵で表現してみました。巨大なトナカイの頭部のツノは作業療法の“作”の文字に見立ててあります。クリスマスのサンタの忙しい仕事風景のしばしの合間の一服を描きました。サンタの袋には沢山の夢がつまっていますが、この作品も夢がつまった一枚になるよう心を込めて描き上げました。